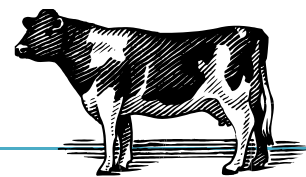
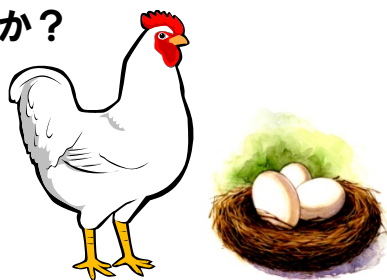


「自然と共に生きる先端科学」



私たちの日々の生活には農学分野の研究が深く関わっています。毎日口にしている食物を効率よく生産するための研究、大切な家族の一員であるペットの治療など様々な場面で農学の研究が関わっています。

この機会に、食の安全や動物の病気など身近な問題について大学の先生から学んでみませんか？



第1回 9月13日(土)

『食の安全と安心を考える』

～遺伝子組換え食品や食品添加物が危険で有機食品が安全で本当？～

農学部応用生物科学科 准教授 川合 伸也

遺伝子組換え食品や食品添加物は危険で有機食品は安全であると、いうのは本当に正しいのでしょうか？食品添加物によって多くの命が守られている一方、有機食品が原因で死者を含む多くの食中毒事件が起きていることを知っていますか？日本が輸入している穀類の半量以上は既に遺伝子組換え作物です。何故、遺伝子組換え作物の栽培は、世界で毎年増え続けているのでしょうか。これらのことを遺伝子組換え作物を中心に考察します。

第2回 9月20日(土)

『最近話題になった動物の感染症』

農学部共同獣医学科 特任准教授 長井 誠

口蹄疫や鳥インフルエンザ、最近では豚流行性下痢といった家畜の病気がマスコミを賑わせています。口蹄疫や鳥インフルエンザではどうして生きている家畜を殺してしまわなければならないのでしょうか？豚流行性下痢はなぜ発生が拡大しているのでしょうか？などの疑問を解消し、人と家畜と病気の関わりをわかりやすくお話します。

第3回 9月27日(土)

『微生物の生育をコントロールするマイコウイルス』

農学部応用生物科学科 准教授 森山 裕充

微生物は、酵母菌など役に立つものから、動物や植物に感染する病原菌など多種多様ですが、微生物よりもっと小さくて、これらに感染するマイコウイルスについてご紹介します。

□日時 9月13日、20日、27日(全3回) いずれも土曜日午前10時～正午まで

■場所 東京農工大学小金井キャンパス 科学博物館3階講堂

□参加費 無料

■定員 70人

□対象 高校生以上の市内在住、在勤、在学の方
(東京農工大学府中キャンパスの方もご参加いただけます。)

■申込み 8月18日から電話又は直接公民館緑分館窓口へ

□問合せ 小金井市公民館緑分館 電話042-387-7301

